

令和4年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人幸輪会
若葉保育園

評価項目の達成・取組み状況・これから改善したいこと

評価項目	取組み状況
I 保育の計画性	社会福祉法人幸輪会の理念に基づいて子どもの自立を促す保育を目標に保育目標を掲げ、年間目標、保育計画を作成している。 保育環境の見直しを行い、個々の子どもの発達に応じた保育を進めていった。コロナ禍の中でできる範囲での保育の進めかたを話し合い幼児期にふさわしい経験が積み重ねられるような計画に努めた。
II 保育のあり方・子どもへの発達に応じた対応	今年度は専門の先生の指導のもと、子どもたちの発達に応じた環境作りに意見を出し合い、部屋の配置替えや保育環境の見直しを行いコーナー作りにアイデアを出し合い保育を進めていった。 新型コロナウイルス感染予防対策を取りながら、行事など安全な保育を進め子どもたちの成長を促すことができるような保育に努めた。
III 保育者としての資質や能力、良識、適正	保育の中でのケース会議や、園内研修を行い保育の振り返り、保育士としての資質向上に努めている。 職員同士の連携を確かめながら、チーム保育がうまく進むようにその場に応じた対応などの話し合い、見直しをして保育を進めていった。
IV 保護者への対応・支援	保護者に対する守秘義務は職員に伝達して遵守している。 コロナ禍の中での保育を行う上で、保護者との連携をとりながら予防対策、発熱時の対応協力をお願いする声掛けをして、健康管理に努めていった。 個人面談を行って信頼関係に努め、情報を共有して支援のいる子どもには個別に対応して保護者支援に努めている。送迎時には一日の様子を伝え、子どもの成長を共に喜び保育に生かすように努めた。
V 地域や社会との関わり・地域子育て支援	地域の自治協議会活動要請や、近隣の行事には積極的に協力するように努めている。 一時保育事業や休日保育を行い、里帰り出産の方の受け入れを実施し、子育て支援センターと連携を取りながら地域の子どもの子育て支援に参加している。 市の社会福祉法人主催のプロジェクトにも会員として参加し、今年度は子供たちが花植えを、職員は清掃作業の取り組みに参加協力しました。
VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲、態度	県の保育協会、保育士会等のオンライン研修を受講し、キャリアアップ研修受講、職員の資質向上につなげている 市内研修のテーマに沿った研修を進め子どもの成長を見守りながら自己研鑽に努めていった。